５－４　業界の将来を担う若手の主体的活動

5-4-1 「業界展望を考える若手の会」の設立経緯

「業界の将来を考えているのは経営幹部ばかりだった。しかし、業界の将来を担うべき存在は誰なのか。我々若手世代ではないか。であれば、若手自らが業界の現状を憂い、明るい未来を描き、実現に向けて今から行動すべきでないか。」

そうした問題認識を持った若手が協会に嘆願し設立された若手組織が、「業界展望を考える若手の会（設立：2015 年 4 月、新体制：2021 年 7 月）」（以下「本部若手の会」という。）である。

【ミッション】若手の力で業界活性化の一大ムーブメントを興す

【目標①】若手目線での建設コンサルタント業界への問題提起

【目標②】若手主体の企業変革アクションの実践

【目標③】若手の主体的な行動によりワクワクを伝播させる

【若手の会が目指す姿】自走するチーム（自律型組織）

【若手の会の意義・価値】

- 試行錯誤（本業ではできないことの試行、会社の壁を越えた越境体験）
- つながり（若手同士の交流の場を創出。業界内・業界外団体とのコラボレーション）
- 自己認識・自己実現（なりたい自分はなにか、どうやったらなれるか、建設コンサルタントとしてのやりがいを発見、活動を通じて意識を醸成）
- 居心地の良さ（所属企業とは異なるサードプレイス）
- 成長を促す（プロジェクトに主体的に参加し、チャレンジしやすい環境整備）

5-4-2 本部若手の会の活動紹介

本部若手の会では、アンケート調査、各種イベント（業界内のみならず、異業種企業とも連携）の開催等を通じて、協会に提案や要望を行っている。また SNS 等（X（旧 Twitter）、ポッドキャスト（Apple podcast、Spotify）、YouTube、 Facebook、note、Instagram）の広報活動に加え、業界関係紙等にも掲載されている。

2024 年度に行った各種活動を以下に示す。

①委員会活動

2024.06：コンサルティングエンジニア連盟との意見交換会の実施

②各種イベント

2024.03：建コン×ベビーマッサージ 「ベビーマッサージセミナー」を集合形式・ウェブ会議併用のハイブリッド形式で開催

2024.06：建コンの多様な働き方を考える「中部支部講習会」を愛知県にて開催

2024.11：沖縄地域の交流を活性化 「建コン沖縄地域若手交流会」を沖縄県にて開催

2024.12：「建コンのビッグピクチャーを考える」をテーマに東京にて開催・國學院大學経済学部の手塚貞治教授をお招きし「未来を考えるシナリオプランニング」を学びビッグピクチャーの議論に反映。

③広報活動

X（旧 Twitter）：「建コン本部若手の会」。活動情報を随時配信中。

ポッドキャスト（Spotify 等）：「建コンれいでぃお」。建コンの若手の思いを配信中。

YouTube：「建コン本部若手の会（公式）」

Facebook：「建コン 4.01（ケンコン・フォース）」

note：「建コンまがじん」

Instagram：「土木の世界/World of Doboku」

5-4-3 若手世代が感じる業界のやりがい・魅力と課題

（1）建設コンサルタント業界で働く若手のやりがいと課題

2022 年 11 月に本部若手の会が、中国支部若手の会と協働で開催した「建コン若手の会 Assemble the WAKATE（中国支部交流会）」では、建設コンサルタント業界で働く若手が感じているやりがいと課題について議論した。議論で挙げられた「業界全体に共通するやりがいと課題」の一部を以下に紹介する。

●若手が思う業界全体に共通するやりがい

①カタチが残る（自身のアイデアが実現できる、地図に残る）

②世の中のためになる仕事で稼げる（稼いだお金に胸を張れる）

③社会の課題を解決できる（課題解決のストーリーを作ることができる）

④仕事がなくなることがない（社会課題を解決するためニーズが高い）

⑤社会・地域・地元・人の役に立てる（地元に恩返しができる、日本各地の力になれる）

⑥人との交流が楽しめる（発注者・施工者・住民等など色々な人と交流することができる）

●若手が思う業界全体に共通する課題

①モチベーションの維持（直接感謝される機会は少ない）

②長時間労働（残業時間はまだ多い、目の前の業務に忙殺されることがある）

③新技術（DX）に積極的ではない（紙、書類が多い、導入に時間を要する）

④自己実現（働く時間も限られる中、目の前の仕事に忙殺されてやりたい仕事ができない）

⑤キャリアチェンジが難しい（同じ職務が続くケースがある、職位があがると手を動かす機会が減る）

⑥一人前になるまで時間がかかる（技術者として自立できるまでに時間がかかる）

（２）建設コンサルタントの魅力

2023 年 7 月に本部若手の会が、近畿支部魅力発信委員会と協働で開催した「建コン WillSummit2023@近畿（全国支部合同若手交流会）」では、建設コンサルタント業界で働く若手が感じている魅力をシェアし合い、再認した上で魅力の発信に関する議論を行った。若手同士で魅力をシェアし合った結果、若手が感じている魅力は、「人（直属の上司や同僚、仕事を通じて出会う人）」「所属企業」「仕事を通じて出会う場所」「仕事そのもの」「社会的影響力（スケールやインパクト）」「お礼の言葉や評価」及び「自身や後輩の成長」など千差万別であった。魅力のシェアの中で挙げられた若手が感じている魅力の一部を以下に紹介する。また、ディスカッショ

ンの概要（魅力と届けたい相手）を**図 5-4-1** に示す。

＜人（上司）の魅力＞

・困難な課題に対して、平然と説明し、客先を納得させる上司
・土日は休み、家族イベントを優先しながら業務をしっかりこなす上司
・客先が求めていることを言語化することがうまい上司

＜仕事そのもの＞

・チームで成果品を着々と形にしていく過程の喜び
・プロポーザルや総合評価における技術提案で受注につながった瞬間
・業務分野が多く、行政やゼネコンではできない面白さ（チームワーク）
・地元に貢献する仕事をしている時
・大学や研究機関と共同研究ができること
・全国を飛び回り様々な土地との出会い
・所属企業で誰も為し得なかったことを達成

＜社会的影響力、スケールの大きさ＞

・災害時など困っている住民や客先への対応時、自身が設計した構造が機能し災害を防いだ時に誇りを感じる
・数万部印刷された業務成果を見た時の達成感
・自身の業務がメディア（新聞、ニュース等）に取り上げられた時
・大規模な構造物（橋やトンネル等）や計画がカタチになった時、地図に記載された時の感動

図 5-4-1　全国支部交流会のディスカッション概要（若手が感じる魅力と魅力を届けたい相手）

5-4-4 若手世代のアクション

本部若手の会は、上記のような課題意識を共有するとともに、「主体的なアクションでワクワクを伝播させていく」をスローガンに、業界をアップデート（最新のものに更新）するためのアクションを積極的に展開している。

（1）若手組織代表者 40 名でワーケーション開発合宿

2022 年 7 月には全国各支部の若手組織代表者 40 名が長野県千曲市に一堂に会し、コロナ禍で”フェイス・トゥ・フェイス”コミュニケーションが可能でチームビルディングに効果的な”ワーケーション”を体験しながら、若手の会のアクションプランを策定する開発合宿を開催した。参加者のほとんどが初めてのワーケーション体験ではあったが、信州千曲観光局や地元の方の協力もあり、その場でしか巡り会えない出会いやアイデアが創出された。

ワーケーションを初めて体験した際に感じた疑問を解決する「建コンワーケーションのすすめ」を図 5-4-2 にて紹介する。

図 5-4-2　建コンワーケーションのすすめ

（2）コロナ禍を経た若手の働き方実態調査

2022 年 10 月には、建設コンサルタンツ協会若手の会等所属委員（全国 9 支部の若手組織、女性の会）を対象に、”若手にとって働きやすい職場環境を形成する一助となること“を目的とした「コロナ禍を経た若手の働き方実態調査」アンケートを行った。アンケートの設問は、①所属企業や個人が実施している「生産性向上、業務効率化、残業削減」の取組み内容や、②「働き方の多様化」に関わる取組み内容、③現在の働き方について悩んでいること・自由意見とした。

調査結果の一例として各社で実施している生産性向上の取組み状況は、**図 5-4-3** に示すとおり各社で実施している取組みは、ネガティブな評価よりもポジティブな評価（生産性向上効果がある）が多く、ポジティブな評価数が 10 件以上あるものは以下の取組みであった（**図 5-4-3** 黄色着色項目）。

①ノー残業デー（呼びかけ）　【残業の管理】
②PC 使用時間規制　【残業の管理】
③フレックス制度　【勤務時間の変更】
④時差出勤制度　【勤務時間の変更】
⑤在宅勤務　【勤務場所の変更】
⑥WEB 会議の活用　【ツールの活用】
⑦チャットツールの活用　【ツールの活用】
⑧ノート PC の貸与　【備品類の整備】
⑨スマートフォンの貸与　【備品類の整備】

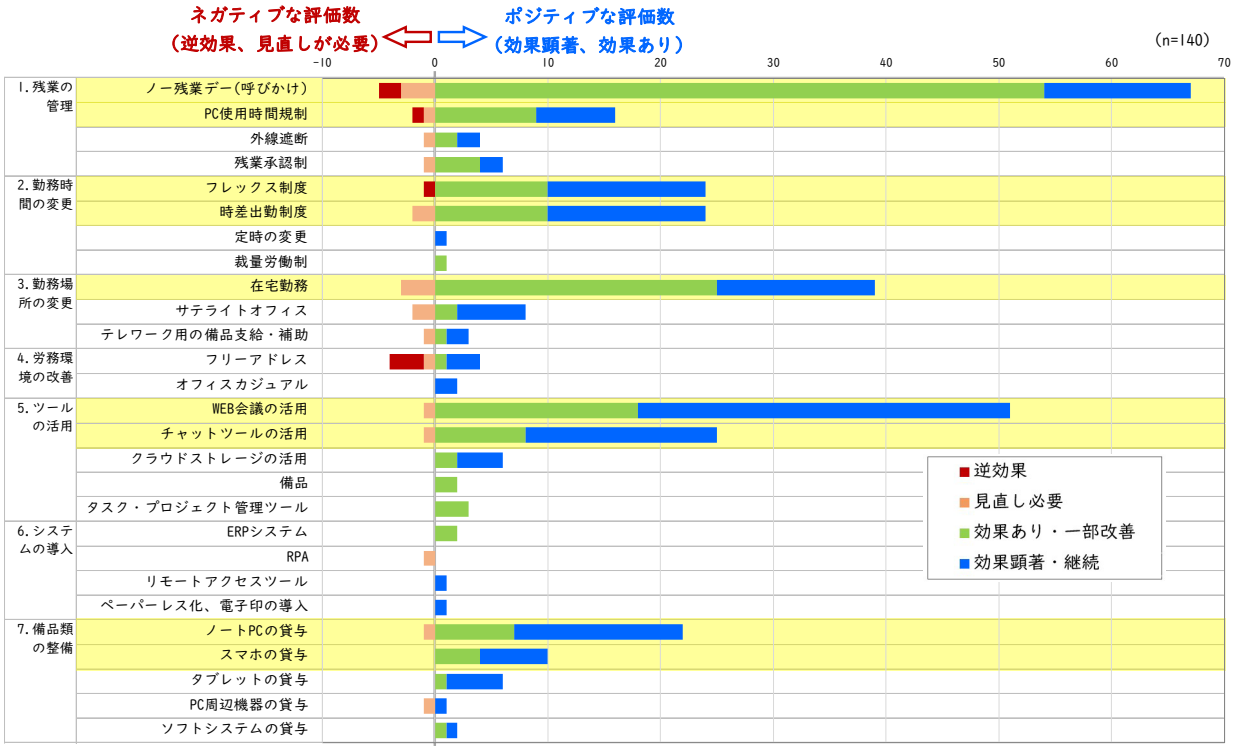

図 5-4-3　調査結果の一例（各社で実施している生産性向上の取り組み状況）

（3）建コンで働く若手の本音とアイデア 14 の掲載

2023 年 11 月には、上記アンケート結果を踏まえ「建コンで働く若手の本音とアイデア 14」を作成し、建設コンサルタンツ協会会員ホームページに掲載した。これらは「残業を減らすために始めた制度のはずが、逆に負担が増え困っている」という若手の声が発端で、管理者側で見えづらい本音や課題、若手が考えている改善アイデアを 1 冊に取りまとめた。本書の構成は、第 1 章で「事例集の使い方」、第 2 章、第 3 章で「各社の取組に対する若手社員のリアルな評価・意見」、第 4 章で「各取組を検討する際のアイデア事例」を整理している。個人から始められる働き方アイデアも掲載しており、経営層、管理部門のみならず、自分事として捉え、自ら行動に移すきっかけになることにも期待している。

参考アイデア一覧表（1/2）

取り組みたいテーマ毎に参考アイデアを一覧表にまとめました。
本書では第2章・第３章にて各取組アイデアの事例も掲載しています。第4章の参考アイデアは具体的な取組を導入する際のヒントとして、併せてご覧ください。

このような悩みがある企業におすすめ

取り組みたいテーマ
◆生産性向上・業務効率化
◆長時間労働の削減
◆時間・場所等の多様な働き方
◆多様な人材の活躍

▼取組アイデア14選（本書掲載内容）

取組アイデア		取り組みたいテーマ				ページ番号
		生産性向上・業務効率化	長時間労働の削減	時間・場所等の多様な働き方	多様な人材の活躍	
取組①	フレックスタイム制の導入	●		●		p.21
	時差出勤の導入	●		●		p.21
取組②	サテライトオフィスの活用	●		●		p.22
	コワーキングスペースの活用	●		●		p.22
取組③	WEB会議システムの活用	●		●		p.23
	チャットツールの活用	●		●		p.23
	データのクラウド化	●		●		p.23
取組④	ノートPC・タブレット等の支給	●		●		p.24
取組⑤	ノー残業デーの実施		●			p.25
取組⑥	時間外作業の規制		●			p.26
取組⑦	在宅勤務の実施	●		●		p.27
取組⑧	フリーアドレスの導入			●		p.28
取組⑨	オフィスカジュアルの導入	●				p.29
取組⑩	受注目標の適正化		●			p.30

参考アイデア一覧表（2/2）

▼取組アイデア14選（本書掲載内容）

取組アイデア		取り組みたいテーマ				ページ番号
		生産性向上・業務効率化	長時間労働の削減	時間・場所等の多様な働き方	多様な人材の活躍	
取組⑪	勤務地の希望制度（異動の制限）			●	●	p.31
	勤務時間の希望制度			●	●	p.31
取組⑫	副業				●	p.32
取組⑬	男性の育児休暇取得				●	p.33
	時間単位の有給休暇			●	●	p.33
取組⑭	ダイバーシティ＆インクルージョンの推進				●	p.34

※次ページからの取組テーマは、右の様な形で省略して掲載しています。

生産性向上	長時間労働の削減	多様な働き方	多様な人材の活躍
●			

図 5-4-4　働き方参考アイデア一覧表（建コンで働く若手の本音とアイデア 14 抜粋）

（4）建コン業界のビッグピクチャーを描く

2024 年 11 月に本部若手の会が開催した「建コン WillSummit2024@東京（全国支部合同若手交流会）」では、「若手の会の 10 年を振り返り、今後の建コン業界のビッグピクチャーを描く」をテーマにディスカッションを行った。建コンのビックピクチャーを描くためのヒントを得るため國學院大學経済学部の手塚貞治教授をお招きし、「未来を考えるシナリオプランニング」と題して、シナリオプランニング（将来起こり得る環境変化について複数のシナリオを用意し、それに対する複数の戦略代替案を検討する手法）についての講義を実施いただき、学術的なアプローチから建設コンサルタント業界の未来について考えた。

（5）業界で働く若手の思いを伝える活動

若手の会の活動の発信は、幅広い世代・立場の方とつながり、建設コンサルタント企業で働く若手の思いを伝えていくために、X（旧 Twitter）、YouTube、ポッドキャスト(Apple podcast ,Spotify)、note、Instagram の 5 種類の媒体をメインに情報発信している。

「X（旧 Twitter）」は、本部若手の会の活動に関わる内容の発信に留まらず、同じく土木業界で情報を発信しているアカウントで、個人とのつながりを構築している。

「YouTube」は、映像として多くの情報を伝えられるメリットを活かし、本部若手の会の活動の記録をナレッジとして蓄積するとともに、映像から伝わる表情や熱意などが各支部の活動や業界の活性化につながることを期待している。

「ポッドキャスト(Spotify 等)」は、「建コンれぃでぃお」という番組として、若手の会の委員を中心に様々な企業のメンバーが集まって話した建設コンサルタント企業で働く若手の「困っていること」や「悩んでいること」などの生の声を共有することで、業界で働く人の一体感を高めるとともに、等身大の建設コンサルタントを業界外に広く伝えるために発信している。

「note（建コンまがじん）」は、①建設コンサルタントと出会ってもらうこと、②建設コンサルタントの仕事をより知ってもらうこと、③若手の会を知ってもらうことをテーマに日々の活動や建設コンサルタント業界で働く若手の仕事内容を文章メインで蓄積・発信している。

「Instagram（土木の世界）」は、土木のダイナミックさや日常を支える土木の魅力等を伝える写真を発信し、若年層などの感性に訴求し、土木や建設コンサルタントを知らない方が興味を持ち、知るきっかけとなることを期待している。

【X（旧 Twitter）】　【YouTube】　【Spotify：建コンれぃでぃお】

@INFRASTAGRAM

【note（建コンまがじん）】　【Instagram（土木の世界）】

5-4-5 支部の若手活動

若手組織は全国 9 支部に発足しており、各々の支部にてアクションを起こしている。2024 年度の各支部の代表的な取組みについて記載する。

（1）北海道支部

1）若手技術者交流会の開催

建設コンサルタンツ協会北海道支部会員企業より若手社員を募集し、業界の課題に関するワークショップを行った。建設コンサルタント業界が抱える課題や課題解決方法、業界の魅力アップのために必要なことについて討議を行い、グループごとに討議内容を発表した。

開催に当たっては、2018 年に開催した前回の若手技術者交流会の内容を参考に、プログラム内容などを設定した。

【開催日時】2024 年 11 月 15 日(金) 14:30～17:00
【開催方法】札幌駅前ビジネススペース 2-H 会議室（対面開催）
【参 加 者】建設コンサルタンツ協会所属企業、北海道支部若手の会より　計 36 名
【プログラム】① 目的・進め方の説明
② 自己紹介・アイスブレイク
③ グループ討論
・業界の課題について
・業界で働く魅力について
・課題解決や魅力アップに必要なことについて
④ グループごとに討論内容を発表

写真 5-4-1　若手技術者交流会の様子

（2）東北支部

1）整備局若手職員交流会の開催

建設コンサルタント業界の枠にとどまらず、東北地方のさらなる発展に向け、立場の異なる若手同士の交流を通じて、建設業界及び東北地方の抱える課題を解決していくことを目的に実施した。

写真 5-4-2　整備局若手職員交流会の集合写真

【開催日時】2024 年 11 月 29 日（金）13：30～17：00
【参 加 者】東北地方整備局 若手職員（8 名）、東北支部若手の会（12 名）　計 20 名
【テ ー マ】① 業界に入った時の思いと現在
② 建設業界の魅力アップ「新 4K」の実現に向けて

2）若手技術者交流会の開催

地域の特徴を踏まえた課題解決に向けた「各県交流会」を実施した。以下、令和 6 年度に実施した、山形県内の若手技術者を対象とした「山形県交流会」の概要である。

写真 5-4-3　山形県交流会の集合写真

【開催日時】2024 年 9 月 27 日（金）13：00～17：00
【参 加 者】山形県を中心とした若手技術者（15 名）、東北支部若手の会（16 名）　計 31 名
【テ ー マ】「建設コンサルタント業界を働きたい・働き続けたい魅力的な業界にするために」

3）土木系学生との交流会

建設コンサルタントの仕事や魅力等を学生に伝え、業界の認知度の向上や、働くことに対する不安、就職活動への不安等を解消するため、学生がカジュアルに参加できる座談会を開催した。

写真 5-4-4　座談会の集合写真

【開催日時】2024 年 7 月 5 日（金）18：00～
【参 加 者】日本大学土木工学科学生 学士 1 年生～修士 2 年生（32 名）
東北支部若手の会（15 名）　計 47 名
【実施概要】日々の仕事内容や業界に関する説明（10 分）、雑談・交流（50 分）

4）建設コンサルタント PR 活動

建コンの魅力発信として、下記の活動を実施した。

- SNS（Facebook・X・Instagram・YouTube）で業界 PR 発信
- 大学オープンキャンパスへの参加
- EE 東北 24 でのブース展示
- テレビで業界 PR 発信
- 建コンパンフレット作成（図 5-4-5）

図 5-4-5　建コンパンフレット

（3）関東支部

関東支部若手の会の今年度の活動として、以下に示す 3 つの項目について取り組みを行った。代表活動として「② 関東地方整備局との若手交流会の開催」の詳細を後述する。

① 業界のイメージアップ施策検討：対外イベントの立案（例；業界 PR 冊子の提案）
② 関東地方整備局との若手交流会の開催：開催準備・対面協議の実施、イベント当日の運営
③ 実態調査アンケートの実施検討：アフターコロナを通じて業界の抱える課題や仕事への意識がどのように変化したのかをアンケート
④ 新入社員研修会での講義：毎年 4 月に建設コンサルタンツ協会で行われる新入社員研修会にて、入社 1～4 年間の経験と新入社員としての業務や仕事の進め方について講義を行った。R7 年度も講義予定

なお、①については、現状、業界のイメージアップのため、関東支部若手の会でできるイベントから建設コンサルタンツ協会関東支部として行ってほしいイベント等を計画・提案中である。

③については、今年度はアンケート調査の方針や質問内容を検討中であり、2025 年度夏ごろ調査実施予定である。

1）関東地方整備局×建設コンサルタンツ協会（関東支部） 若手技術者交流会の開催

建設業界における若手技術者として、業界の抱える課題や解決に向けた取組などについて情報共有するとともに、業界の魅力向上に向けて、発注者・受注者という立場の違いにとらわれない活発な意見交換を実施するため、関東地方整備局との若手技術者交流会を実施した。関東支部としては、関東地方整備局との交流会は初の試みである。

【開催日時】2024 年 9 月 13 日（水）13:00～17:00
【開催方法】対面（グループディスカッション方式）
【参 加 者】関東地方整備局職員 10 名、建設コンサルタント 20 名、計 30 名
（関東支部　若手の会 WG17 名、女性の会 WG3 名）
【テーマ】「受発注者がお互いに求めていること」「業界の活性化」

写真 5-4-5　関東地方整備局×建設コンサルタンツ協会（関東支部） 若手技術者交流会の様子

（4）北陸支部

1）皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア 2024

北陸支部若手技術者ワーキンググループでは、支部内の若手技術者がお互いに刺激し合い、仕事に対するモチベーションや技術力の向上を図っていくため、日々の仕事や自身の考えなどについて自由に意見交換ができる場として、「皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア 2024」を対面形式で開催した。1 日目は、2024 年 1 月 1 日の能登半島地震の復旧・復興に結び付けるために、震災後の復興支援の在り方について講義を受けたのち、参加者同士で建設コンサルタントの将来について意見交換を行った。また、2 日目は建設コンサルタントが携わるインフラ整備について新潟市内を視察した。

意見交換では、日々の忙しい業務の中ではなかなか気づくことができない「建設コンサルタント業界のやりがい」「将来、どのような業界になってほしいか」について、参加者同士で意見交換を行い、業界の魅力ややりがいの再発見、再認識することを目指した。その結果、魅力ややりがいを感じる点として、「学ぶことが多くあることが魅力的な業界」「地元の発展、活性化に貢献できる業界」などの魅力が挙げられた。開催後のアンケートでは、「今思っていることを若手同士で話し合え、今後の糧になった」など意見があり、若手技術者同士の意見や考えを“共有”し、“共感”することの必要性を改めて認識したところであり、今後もこのような機会を継続的に開催していきたい。

写真 5-4-6　ディスカッションの様子

写真 5-4-7　参加者の集合写真

（5）中部支部

1）学生 PR 活動

学生が職業選択を行うにあたって「建設コンサルタント」について知る機会は、現状インターンシップや新卒採用向けの企業説明会など、特定の企業とのつながりに限られている。そのため、学生への業界 PR 活動として、以下の活動を行った（**表 5-4-1**）。

表 5-4-1　中部支部の学生 PR 活動一覧

イベント	内容
Job Café in 名古屋 （2024.8.24）	就職活動を控えた学生と若手技術者が自由に話すことで、学生側が「建設コンサルタント」業界全体を知る機会と、有益な情報を得られる場を創出することを目的として実施した。
建設コンサルタントフェア （2024.10.26）	金山駅のコンコース広場で一般の方向けにポスター等を使用し、建設コンサルタントという仕事と役割を知ってもらうことを目的としたイベントに参加した。
建設技術フェア （2024.11.28～29）	建設コンサルタンツ協会が出展しているブースを担当し、学生に対して建設コンサルタントに関して説明した。
あいち建設未来サロン （2024.11.22、12.20） （2025.1.20）	愛知県が主催する学生への業界 PR の場に参加し、就職活動を行う学生の方に対し“建設分野の魅力”を発信するとともに“建設分野に携わる若手人材の育成”を行うことを目的として実施した。

写真 5-4-8　Job Café in 名古屋の様子

写真 5-4-9　あいち建設未来サロンの様子

2）業界の意識調査に関する活動

中部支部若手の会にて実施した「業界の意識調査アンケート」の結果（図 5-4-6）より、今後の建設コンサルタント業界を支える若手～中堅技術者の満足度の低さが課題として見えてきた。その主な要因として、″コミュニケーション”” 就業環境”“技術力向上”“やりがい”” WLB(Work Life Balance)”の５つと推察した。

アンケートの集計結果を踏まえ、本部若手の会と意見交換会を実施し、対応策を議論した。今後の取り組み方針は現在検討中である。

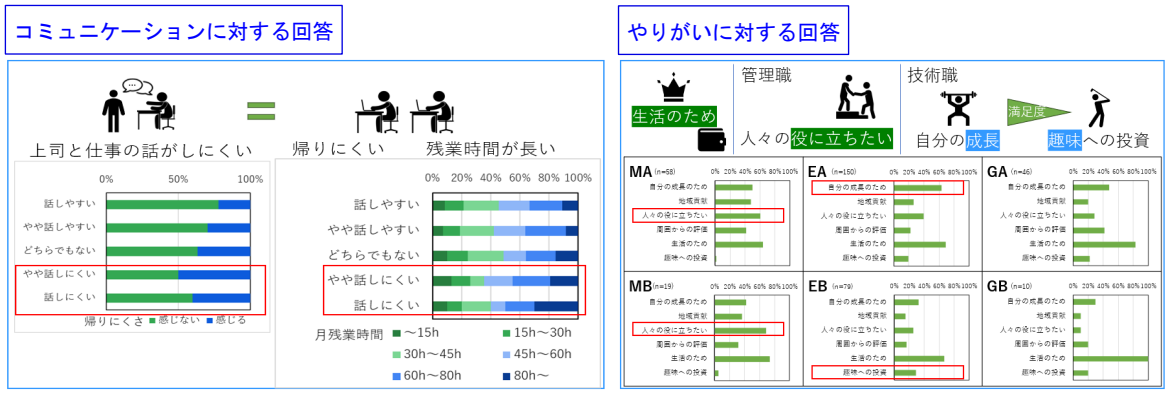

図 5-4-6　中部支部技術者アンケート結果抜粋

（6）近畿支部（魅力発信委員会）

1）大学・高専での業界説明会

明石高専、関西大学、近畿大学、舞鶴高専において、建設コンサルタントの概要説明、キャリアパスの紹介、若手技術者の体験談紹介、等の講義を実施し、建設コンサルタントの魅力を紹介した。講義前後のアンケート調査では、この活動が建設コンサルタントのイメージアップにつながっていることを確認した。

写真 5-4-10　学校訪問の講義の様子

2）イベントへの参加

自治体が開催し“自分のスキルや体験を 1 日限りの先生になって発信”するイベント「サマー

セミナー（尼崎市）」「みんなの学校ごっこ（京都市）」へ参加した（**写真 5-4-11**）。サーモグラフィーを使った体験講座とこれを使った建設コンサルタントの仕事の紹介や、避難所運営ゲーム（HUG）を活用して災害に備える知識を学ぶ講座等を行うことで、建設コンサルタントと人々の生活との関わりや職業としての魅力を伝えた。

写真 5-4-11　イベントの様子

3）建コン川柳コンテスト 2024

「建コン川柳コンテスト 2024」を開催した（**写真 5-4-2**）。応募総数 75 作品の中から、委員会で一次選考を行い第 57 回建設コンサルタンツ協会研究発表会の会場投票により最優秀賞、優秀賞、佳作を決定した。過去に実施した CM 総選挙を含めこれらのコンテスト作品は、協会ホームページや YouTube に公開し、建設コンサルタントの魅力を発信する媒体として活用している。

写真 5-4-12　川柳コンテスト作品

4）橋の魅力発信プロジェクトの PR 活動

橋の魅力発信プロジェクトの PR 活動として、KaitoIwashita 氏（映像ディレクター）と動画を制作した（**写真 5-4-13**、**図 5-4-7**）。また、プレゼント企画として、仁井山征弘氏（ヒップホップシンガー）と橋ソングを、YURIKA 氏とダンス振付を制作し、『#橋ダンスを踊ってみよう』として、居酒屋哉月（SNS フォロワー300 万人）のアカウントでプレゼント企画を実施（動画 40 万回再生）した。Instagram フォロワー数は、10,000 人を達成した。

写真 5-4-13　橋の魅力発信プロジェクトの PR 動画

図 5-4-7　橋ソング、橋ダンス動画

（7）中国支部

1）子ども、学生に向けたイベントの開催

子ども向けトイドローン体験会（防災教育、まちづくりマップ作成、土木クイズなども併せて）を公民館と共催し（1 日で 3 回）、約 50 名の子ども・保護者が参加した（**写真 5-4-14**）。また、厚生部会主催フットサル大会でトイドローン体験、総務部会主催の業界説明会で若手技術者の入職の経緯や経験を伝えるプレゼンテーションや学生との少人数ディスカッションを行った。

写真 5-4-14　トイドローン体験会の様子

2）SNS 発信、PR マンガ・ノベルティ・カードゲームの制作

業界 PR を目的に、協会や若手の会の活動、就活の経験談等を note・Instagram で発信した。また、可愛い犬キャラクターによる業界あるあるマンガの制作（**図 5-4-8**）、ノベルティクリアファイルの制作・イベント配布、学生の建設コンサルタント理解促進につなげるカードゲームのテスト版制作を行った。

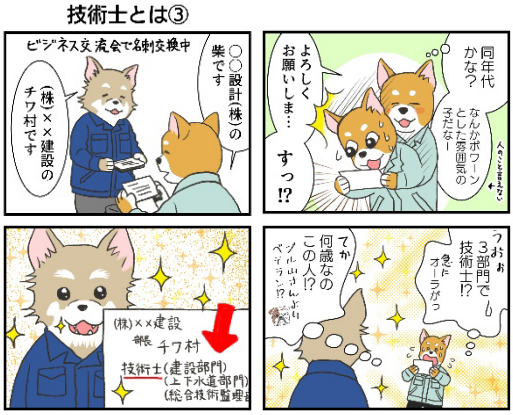

写真 5-4-8　4 コママンガ

3）若手懇親イベントの開催

前年度に続き、若手間のゆるやかなつながり形成を目的に、広島市内で懇親 BBQ を開催し、約 40 名が参加した（**写真 5-4-15**）。

写真 5-4-15　BBQ の様子

（8）四国支部

1）若手技術者交流会 in 四国

四国支部若手の会では、四国内の建設コンサルタントに勤める若手技術者の交流会を行っており、昨年度は、国土交通省業務における「BIM/CIM 原則適用」を踏まえ、「BIM/CIM に関する理想と現実(課題)」をテーマに意見交換を行った。今年度は「四国地方の未来構想（道路・交通、観光・まちづくり、防災）」をテーマに意見交換を行った。次世代の働き方や四国地方の未来について、同業他社の若手技術者と意見交換を行い、同業の仲間として業界をけん引していく自覚や横のつながりができた（**写真 5-4-16**、**写真 5-4-17**）。

写真 5-4-16　集合写真

写真 5-4-17　グループワークの様子

2）子ども・学生向け業界 PR 活動

次世代を担う小学生（6 年生）を対象として、建設コンサルタントの仕事紹介、橋に関するクイズ、タブレットを活用した AR 体験、ドローンの活用事例紹介及び実演、ドローンの操縦体験の出前授業を行った。仕事の一端に触れてもらうことで、建設コンサルタントの仕事・魅力を知ってもらい、キャリアプランニングや職業選択などのきっかけづくりになることを目的とした。

写真 5-4-18　ドローン体験

写真 5-4-19　橋梁クイズの様子

3）異業種交流会 with サイボウズ株式会社

新たな取り組みとして異業種交流を行い「異業種交流により建設コンサルタントの実状を把握し、問題点を整理・共有する」を目的として、「働き方」について意見交換を行った。（サイボウズ松山オフィス）他業界の方々と意見交換を行い、新しい知見を得る良い機会となった。

写真 5-4-20　サイボウズの取組紹介

写真 5-4-21　グループワークの様子

（9）九州支部

九州支部の昨年度の活動内容は、前述の支部活動一覧表に示したとおりであり、業界活性に対する若手ならではの目線やフットワークの軽さを生かした活動を継続している。また昨年度、活動メンバーの半数以上が交代したため、今後は新しい活動や取り組みを行うことを予定している。

1）業界若手向けの若手技術者交流会の開催

建設コンサルタント業界を背負っていく若手社員の人的ネットワークの拡充やコンサルタントとしての自覚・意識を高めることを目的として開催している。例年対面形式で開催しているが、2024 年度は、急遽台風により WEB での開催（発表）とし、後日、表彰式及び懇親会を行った。

別日で実施した表彰式の際には、2024 年度より新たな取り組みとして「高評価を得る論文と発表について」を題材としたグループディスカッションを行った（**写真 5-4-22**）。様々な意見があり、各社若手社員及び若手技術者委員の技術研鑽が図れた。

写真 5-4-22　若手技術者交流会（WEB 開催状況及びディスカッション）

2）学生向けジョブカフェの開催

ジョブカフェは、以下に示す目的で開催している。

- 就職活動を控えた学生と、数年前に今の就活スタイルに近い就職活動を経験した若手技術者が自由に話すことで、学生が有益な情報を得られる場を創出する。
- 「JOB CAFE」を通して、建設コンサルタント技術者が初心とやりがいを振り返ることで、開催後の業務に対するモチベーションの向上に繋げる。
- 総務・企画部会の「若手技術者委員会」が中心に企画・運営を行い、その姿を学生に伝えることで、学生の業界に対するポジティブなイメージを醸成する。

ジョブカフェの開催（**写真 5-4-23**）は、毎年好評であるため、今後も同様のイベントをより充実また拡大していく予定である。

写真 5-4-23　ジョブカフェ開催状況